

田村市 × 獨協大学

“ちょこっとエコライフ”実践版

生ごみが消えちゃう？

「キエーロ」のつくりかた・使いかたマニュアル



お問い合わせ

田村市市民部環境課

☎0247-81-2272

もくじ

1 はじめてみませんか？	2
2 キエー口とは	2
3 キエー口を作ってみましょう	2
4 キエー口の作り方	3
材料	3
作りかた	4～6
5 キエー口の使い方	7
ワンポイントアドバイス	9
キエー口に入れていいもの？悪いもの？	10
6 キエー口日記	11

あなたの記録が「キエー口」に初めて挑戦する方へのアドバイスにつながるかもしれません。良い方法にたどり着いた方は、お手数ですが環境課までお知らせください！！

1 はじめてみませんか？

田村市と獨協大学は連携協力協定を結び、外国語教育、環境教育を活用した「持続可能なまちづくり」創造事業を進めています。その中で市民のみなさんに環境教育を提供するためのプログラムを企画・実施しています。

ご家庭から出される可燃ごみの中でも「生ごみ」を減らすために普及に取り組んでいるのが、生ごみ処理器「キエーロ」です。

この機会に、「キエーロ」を始めてみませんか？

2 キエーロとは

生ごみ処理器「キエーロ」は、風・太陽・土の中のバクテリアの力を利用して生ごみを分解し、土に還す仕組みです。

3 キエーロを作ってみましょう



次ページからは、この写真の大きさのキエーロをご紹介します。

最大投入量 3kg

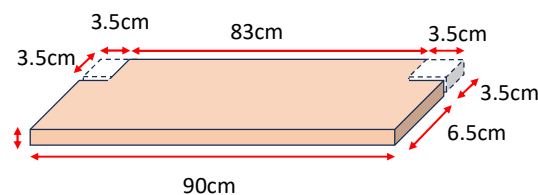
標準分解時間 約 10日

4人世帯くらいで利用可能

4 キー口の作り方

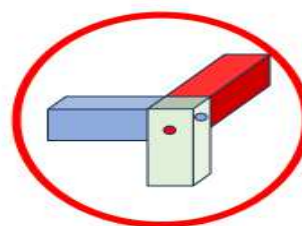
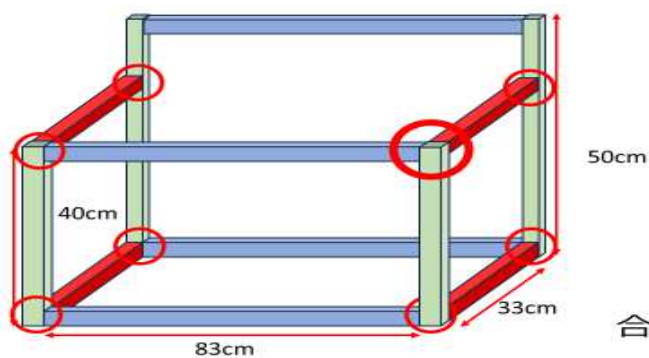
材料（組み立てにはインパクトドライバーと金づちを使います）

- ・ 枠組み用角材（すべて 3.5 cm×3.5 cm）
 - ① 40 cm×2 本 ② 50 cm×2 本
 - ③ 33 cm×4 本 ④ 83 cm×4 本
- ・ 枠に取り付ける側面板（厚さは 1.2 cm）
 - ⑤ 10 cm×90 cm×9 枚（全面・背面）
 - ⑥ 10 cm×40 cm×8 枚（左右側面）
- ・ フタ用角材（すべて 3.5 cm×3.5 cm）
 - ⑦ 88 cm×3 本
 - ⑧ 47 cm×2 本
- ・ フタ用支え ⑨ 3.5 cm×3.5 cm 角材 10.5 cm ×2 本
- ・ 本体取っ手 ⑩ 3.5 cm×3.5 cm 角材 16 cm ×2 本
- ・ 底板（厚さは 1.2 cm）⑪ 10 cm×90 cm×4 枚
※うち 2 枚は長辺の片側の角を 3.5 cm 角
切り落としたもの
- ・ 組み立て用ねじくぎ 6.5 cm×96 本
- ・ 波板（耐久性が良いポリカーボネート材）47cm×97cm 1 枚
- ・ 波板用笠くぎ 24 本
- ・ 蝶番 2 個（6 cm 程度）



作いかた

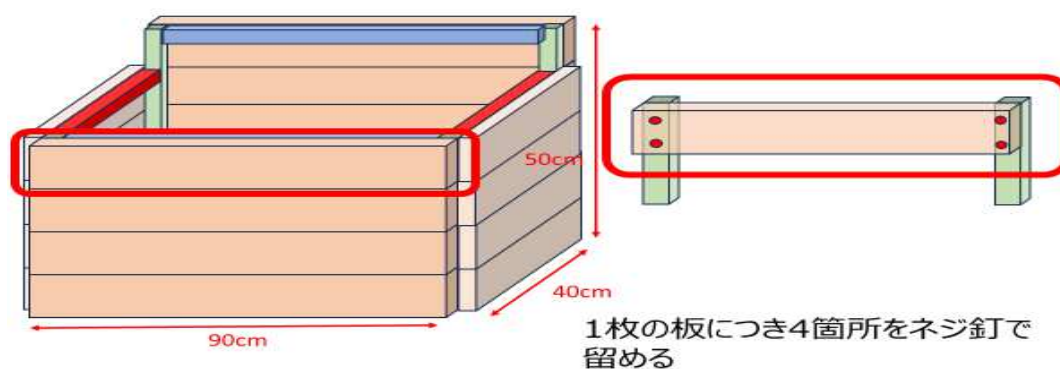
①箱の枠組みを組み立てる



ネジ釘を打つ場所

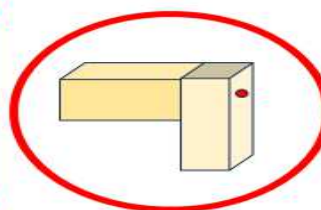
合計16箇所ネジ釘で留める

②枠に板を打ち付ける



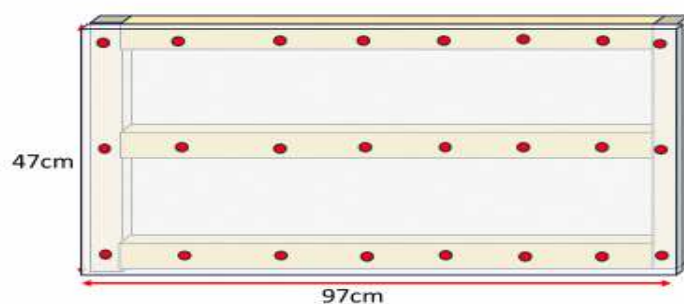
1枚の板につき4箇所をネジ釘で留める

③蓋の枠組みを作る



合計 6 箇所をネジ釘で留める

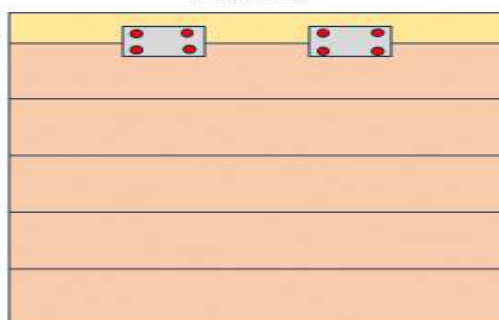
④蓋の枠に波板を取り付ける



傘釘を使って計24箇所留める

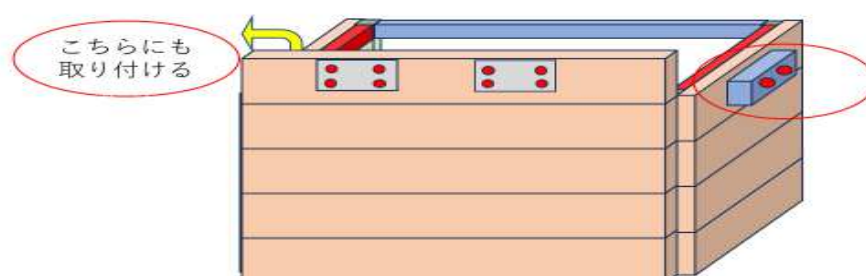
⑤蓋と本体を蝶番で留める

背面図



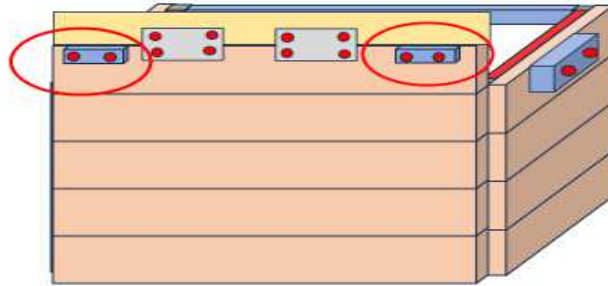
蓋と本体を蝶番で留める

⑥持ち手の板を取り付ける



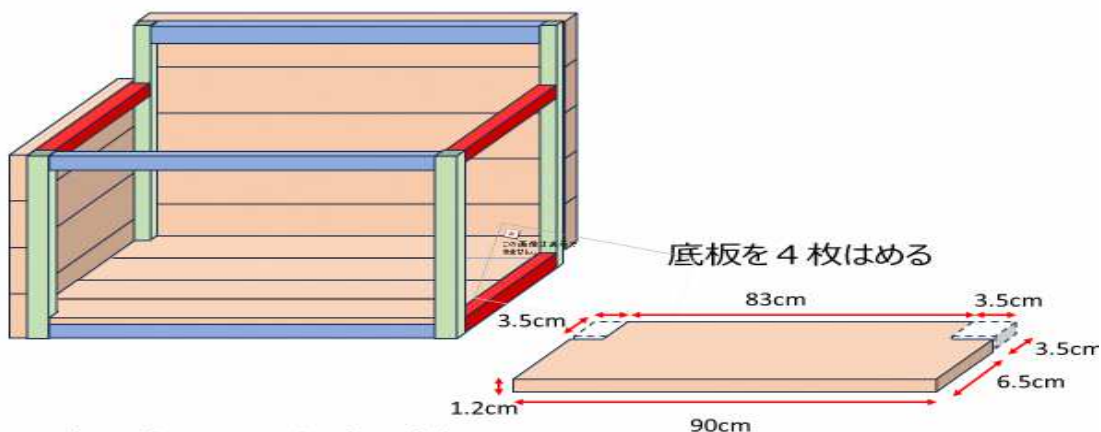
本体の左右両方に持ち手の板をネジ釘で留める

⑦箱の背面に蓋の支えを打ち付ける



背面に蓋の支えを1つに付き2箇所ネジ釘で留める

⑧底板を4枚はめる



→完成です。

※畑に直置きする場合も、直置きしない場合も、キエー口の箱を長持ちさせたいときは、箱に防腐剤を塗布することをお勧めします。

5 キエーロの使い方

箱が完成したら、置き場所を決めて土を投入しましょう。

箱の中には約80ℓの土が入ります。(容量の7分目)

【土について】

- ・ 適した土 → 畑の土（黒土に近いもの）、市販の黒土
- ・ 適さない土 → 粘土質、砂、腐葉土、培養土

※適さない土は、生ごみを分解するバクテリアが少ないからです。

【置き場所について】

- ・ 日当たりが良く、風通しの良いところは、バクテリアが活動しやすく、分解を早めます。

【用意するもの】

- ・ シャベル（剣先）

深く掘ることができ、よく混ぜられるものが Good!

- ・ ペットボトル or ジョウロ

キエーロに水を入れるとき使用します。

- ・ 小さいボウルなど

キエーロに入れる生ごみ用に入れ物があると便利です。

【生ごみの入れ方】

- ① 入れる前に果物の皮や野菜の皮は小さく刻んでおくとう分解が早まります。

※特に冬場は分解が進みにくくなるのでおすすめです。

- ② 穴を掘ります。

深さは 20 cm～25 cmが良いでしょう。

- ③ 穴に生ごみを入れます。

一度に入れる目安は 300 g ぐらいとってください。

- ④ 生ごみを混ぜます。

この時、水分を足します。土団子ができるくらいの量が目安です。お米のとぎ汁や納豆パックの洗淨水なども分解を助けます。

- ⑤ 土をかぶせます。

生ごみを投入したところは時々シャベルでかき混ぜて、分解の度合いを確かめましょう。

ワンポイントアドバイス

- ・生ごみを入れる順番を決め、投入すると効率よく分解します。



投入順のイメージ

- ・場所や順番は目安です。生ごみの分解状況に応じて、場所や投入量、水分などを調整してみましょう。
- ・生ごみを入れた場所と日付がわかるよう、目印をつけるのも便利です。
- ・ペットボトルを利用した水差しは強風の際にキエー口のふたの重しに利用できます。
- ・土を掘った時に分解中の生ごみが出たときは、土の表土に残さないように土を厚めにかぶせましょう。虫やにおいの発生を防ぐことができます。
- ・夏場と冬場では、気温差もあるため分解速度も異なります。

キエーロに入れていいもの？悪いもの？

ご質問が多かったので、参考まで・・・

【キエーロが分解しやすいもの】

肉、魚、ハム、ソーセージ、卵、油もの、ご飯、調理されたもの（天ぷら、炒め物、煮物等）、パン、果物（皮は別）、野菜くずなど

【キエーロが分解しにくいもの】

玉ねぎ、タケノコ、トウモロコシなどの皮、果物の皮（みかん、バナナ、オレンジなど）、卵の殻、生野菜の芯や葉、海藻類、魚の太い骨、軟骨など

基本的に、生ごみであれば入れてはいけないということはないのですが、分解が遅く、臭いや虫の発生源になりかねないため、キエーロに投入する際はあらかじめ一次発酵して腐らせたり細かく碎くなどの工夫が必要です。

水分の少ない硬い野菜の皮や、太い魚の骨などは、無理せず燃えるゴミに出していただいて大丈夫です。

頑張りすぎず、楽しみながら長く続けていただければ幸いです。



田村市×獨協大学

福島イノベーション・コースト構想推進機構の「大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業」の一環として、学生が『たむら市政だより』で“ちょこっとエコライフ”を執筆しています。